

呼吸器内科研修プログラム

I 一般目標 (GIO)

呼吸器科入院患者に接し、良好な患者関係、看護師との関係、及び他科医師との関係を構築しつつ、呼吸器疾患の病態について学び、検査法、診断および治療法を習得する。

II 行動目標 (SBO)

1) 基本的診察法

- * 呼吸器疾患に必要な病歴聴取ができる。
- * 身体所見（視診、打診、聴診）がとれる。

2) 検査の意義と方法、及び手技

- * 動脈血の採取が行え、血液ガス分析の結果が解釈できる。
- * 胸部X線写真の基本的な読影ができる。
- * 胸部C T写真の基本的な読影ができる。
- * 呼吸機能検査の解釈ができる。
- * 特殊マーカー（ACL、KL-6 etc）、腫瘍マーカーの解釈ができる。
- * 胸腔穿刺が行え、その結果が解釈できる。
- * 喀痰検査（グラム染色、一般細菌培養、抗酸菌塗抹及び培養、細胞診）の解釈ができる。
- * 気管支ファイバーの適応と禁忌が判断できる。

3) 治療手技

- * 酸素吸入を適切に行える。
- * 気道確保ができる。
- * 人工呼吸器が適切に使用できる。
- * 動脈ライン確保ができる。
- * 中心静脈栄養法が行える。(CVの挿入、輸液の管理)
- * 吸入療法が行える。
- * 胸腔ドレナージが行える。

4) 各疾患の研修目標

- * 肺炎
臨床像、診断法を理解し、適切な抗生剤の選択が出来、支持療法が行え、退院適応について判断できる。
- * 気管支喘息
臨床像、診断法を理解し、喘息の長期管理、発作時の管理ができる。
- * 慢性閉塞性肺疾患
臨床像、診断法を理解し適切な治療法が行える。
(酸素療法、吸入療法、HOT導入、人工呼吸管理)
- * びまん性肺疾患
原因不明の間質性肺炎、膠原病に伴う肺病変、サルコイドーシス等の臨床像、診断法を理解し適切な治療ができる。
- * 肺結核、非結核性抗酸菌症

臨床像、診断法を理解し、適切な治療が行える。

* 肺癌

臨床像、診断法を理解し、最適な治療法を選択できる。(ステージングができる。緩和ケアができる。)

* 胸膜、縦隔疾患

胸膜炎、縦隔炎、縦隔腫瘍の臨床像を理解し、その診断、治療が行える。

* 気胸

臨床像、診断法を理解し、内科的治療ができ、手術適応の判断ができる。

* 急性呼吸不全

支持療法が行える。(酸素吸入、吸入療法、人工呼吸管理の適応)

* 肺循環障害 (肺塞栓、肺梗塞)

臨床像、診断法を理解し、治療が行える。

* 異常呼吸 (過換気症候群)

臨床像、診断法を理解し、治療が行える。

III 方略 (LS)

- * 吸器科入院患者の、病歴聴取、身体所見を取りカルテに記載し検査、治療の計画を立て、主治医または指導医と共に実施する。
- * 毎日、主治医、または指導医と共に回診し、プレゼンテーションを行い、その後ディスカッションを行い、その内容をカルテに記載する。
- * 患者への説明は、主治医または指導医の同席のもとで行う。
- * CV、胸腔カテーテルの挿入は、主治医または指導医の指導のもとで行い、その手技を学ぶ。
- * 支鏡検査は見学、または助手として参加し基礎を学ぶ(火曜日午後1時30分より)。
- * 吸器科の検討会に出席し、受け持ち患者のプレゼンテーションを行う。
- * 呼吸器科カンファレンス、院内CPC、内科検討会にて症例呈示を行い、提示方法を学ぶと同時に、文献検索法を学ぶ。
- * 以上の事を習得するため、呼吸器疾患の教科書、ガイドラインは自分で学習して行く事。